

プロテスタント Protestant 教会とカトリック Catholic 教会（概論）

1. 歴史的背景

カトリック教会は、キリスト教の初期から続く伝統的な教会です。ローマ帝国時代に成立し、ローマ教皇を最高指導者としています。現在もローマ教皇を中心に運営されています。

プロテスタント教会は、16世紀の宗教改革によってカトリック教会から分離しました。マルティン・ルター、ジャン・カルヴァン、フドリック・ツヴィングリなどが宗教改革の指導者とされています。ローマ教皇の権威等を否定し、聖書のみに基づく信仰を重視しています。

2. 教義と信仰

カトリック教会は、教会の伝統、そして七つの秘跡（洗礼、聖体、堅信、悔悛、病者の塗油、叙階、結婚）を重要視します。また、教皇の無謬性（教皇が信仰と道徳に関する教えを公式に宣言する場合、誤りがないとされる）を認めています。

プロテスタント教会は、聖書のみ（ソラ・スクリプトゥラ Sola scriptura）の原則を重視し、聖書が唯一の信仰と実践の基盤とされます。また、洗礼と聖餐を受け入れますが、その解釈等は教派によって異なっています。教皇や聖職者の特権を否定し、信者全員が「万人祭司」という考え方をしています。

3. 礼拝と儀式

カトリック教会は、礼拝は典礼（ミサ）が中心であり、聖体拝領が重要な儀式とされています。また、儀式や建築物には多くの象徴や伝統、荘厳さが取り入れられています。

プロテスタント教会は、礼拝は聖書の朗読と説教が中心です。形式は教派や地域によって多様ですが、シンプルな礼拝形式を重視し、象徴や伝統よりも聖書の教えを強調しています。

4. 聖職者

カトリック教会は、聖職者（司祭や修道者）には独身を義務付けています。教階制度があり、教皇、枢機卿、大司教、司教、司祭などの階級があります。

プロテスタント教会は、聖職者の独身制を義務付けていません（結婚が認められている）。また、教階制度は存在しないか、存在しても非常に簡素であることが多いのが現状です。

5. 聖母マリアと聖人崇拝

カトリック教会は、イエスを産んだ「聖母マリア」や「聖人」を重要視し、彼らに祈ることをしています。聖人の遺物や聖地巡礼も重要な要素と考えています。

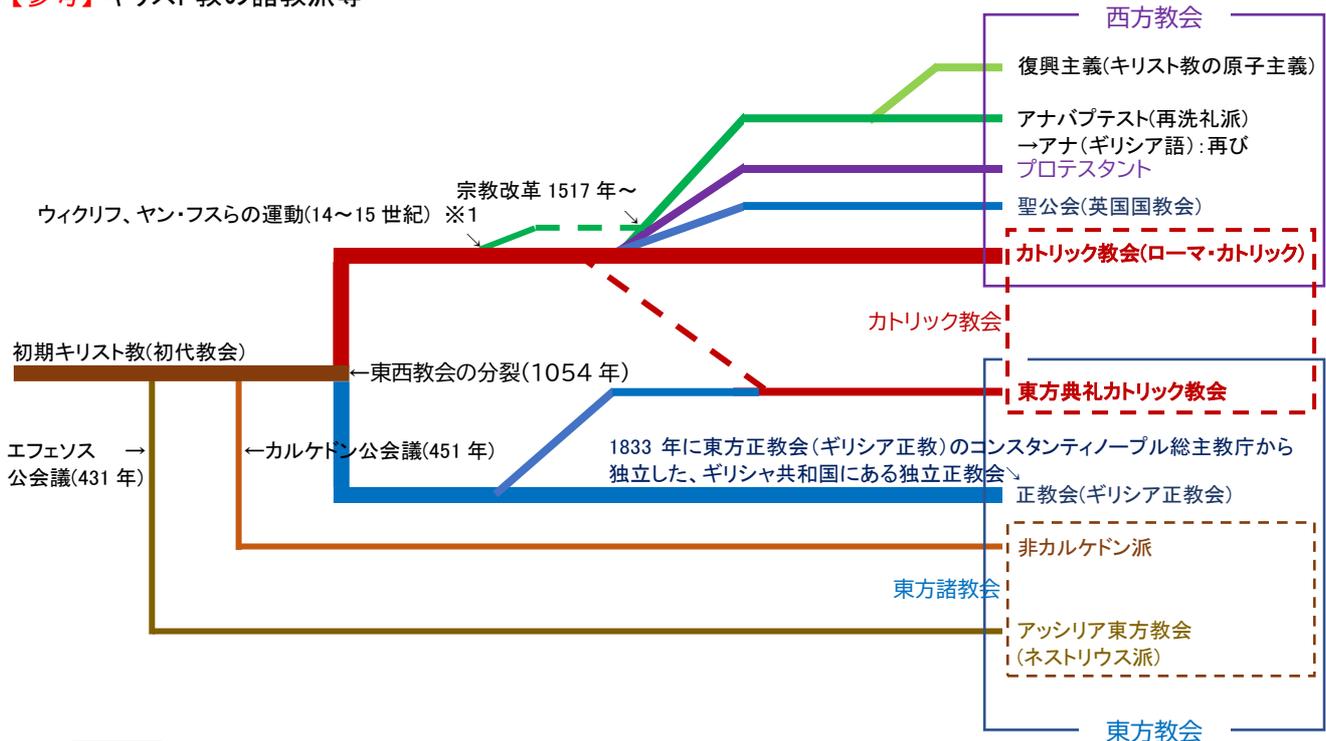
プロテスタント教会は、聖母マリアや聖人の取り次ぎを認めていません。祈りは直接神に向けられ、行われます。聖人崇拝や遺物信仰は否定されています。

これらの違いは、歴史的な背景や信仰のあり方、礼拝の形式に根ざしており、教派や地域によっても多少の違いが存在しています。

プロテスタントとカトリックの違い

	プロテスタント Protestant	カトリック Catholic
最高指導者	いない	ローマ教皇(法王)
聖職者階級	ない	枢機卿→司教→司祭→信徒
聖職者呼称	牧師	司祭(神父)
聖職者の結婚	できる	できない
聖職者の服装	スーツが多いが祭服を着る場合もある	祭服
教会イメージ	簡素な礼拝堂が多い	飾りの多い荘厳なつくりの礼拝堂が多い
特徴的しぐさ	特にない	胸の前で十字架を切る
洗礼名	一部ある	ある
マリア崇拝	ない	ある
聖人	いない	たくさんの聖人がいる
信者の離婚・再婚	個人の自由	禁止

【参考】キリスト教の諸教派等



※1：ウイクリフ（1320年頃～1384年）イギリス宗教改革の先駆者。オックスフォード大学に学び、同校で哲学、神学を講じた。
ヤン・フス（1369年頃～1415年）チェコ出身の宗教思想家、宗教改革の先駆者。ジョン・ウイクリフの考えをもとに宗教運動に着手、聖書だけを信仰の根拠とし、プロテスタント運動の先駆者となった。カトリック教会はフスを1411年に破門し、コンスタンツ公会議によって有罪とされた。

エフェソス公会議 431年

431年、東ローマ皇帝テオドシウス2世（在位：408～450）の召集によりエフェソス（トルコ西部の小アジアの古代都市で、現在のイズミル県のセルチュク近郊に位置している。図1）で開かれた宗教会議。キリストの神性を否定したコンスタンチノーブルの大主教ネストリウスを異端として破門、ニカイア信条（325年開催の第1回ニカイア公会議において採択された信条）の再確認が行われた。

カルケドン公会議 451年

451年、小アジアのカルケドン（アナトリア半島北西部に位置した古代都市で、現在のトルコ共和国イスタンブール市カドゥキョイ地区にあたる。図2）で開かれた第4回公会議。単性論（三位一体を否定し、キリストの人性は仮性で、神性のみを認める）およびネストリウスを批判して、キリストが神性・人性の両性を完全に備えるという正統教義を表明する「カルケドン信条」を定めた。

東西教会の分裂 1054年

キリスト教教会が、ローマ教皇を首長とする「カトリック教会」（西方教会）と、東方の「正教会」とに二分されたことをいい、大シスマ（分裂）とも呼ばれる。分裂の年は、日本においては、ローマ教皇とコンスタンディヌーポリ総主教（正教会で筆頭の格を有する総主教庁・教会で、「コンスタンチノーブル総主教庁」もしくは「全地総主教庁」とも表記される）が相互に破門した1054年とされることが多い。

→395年にローマ帝国が東西に分割された後、476年の西ローマ帝国滅亡を経て、東西両教会の交流が薄くなった。

宗教改革 1517年～

16世紀のヨーロッパに起こった宗教上の変革運動。福音主義を唱えてカトリックの伝統的教義と対立、聖書の権威を主張してローマ教皇の教義上の権威と公会議の無謬性を否定、新しいキリスト教信仰を打ち立てた。カトリックではこれを信仰の分裂と呼んでいる。

【参考】ユダヤ教の原点は、ユダヤ人の始祖アブラム（アブラハム）が神と交わしたとされる「契約」です。

→創世記15：18～21

その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで、・・・エブス人の土地を与える。」

【参考】キリスト教の宗派

- 01 **ローマ・カトリック教会**：1世紀、イタリアのローマ、キリスト教最初の教会、ペトロ創設。
- 02 **非カルケドン派正教会**：3～4世紀、コプト正教会、シリア、エチオピア、アルメニアの教会等。
- 03 **アルメニア教会**：294年頃、アルメニアのエチミアジン、アルメニアは、最初にキリスト教を国教化。
- 04 **東方正教会**：1054年に西のローマ・カトリック、東の正教会に分裂。
- 05 **ルター派**：1520年、ドイツ、起源はドイツの宗教学者マルティン・ルター、聖書のみが教義を伝える。
- 06 **英国国教会**：1534年、イギリス・ロンドン、16世紀にローマ・カトリックから分派。
- 07 **メノナイト派**：1540年代、オランダ、牧師メノ・シモンズ創設、聖書中心、再臨を信じる。
- 08 **長老派**：16世紀、スコットランド、仏の神学者ジャン・カルヴァン等に起源、司教制を廃止、長老性。
- 09 **バプテスト派**：17世紀初頭、オランダとイギリス、英国プロテスタントから派生、聖書中心、成人洗礼。
- 10 **クエーカー派**：1650年頃、イギリス、指導者ジョージ・フォックス、由来：神の名で我が身が震えた。
- 11 **アーミッシュ派**：17世紀後期、スイス、厳格なプロテスタント、メノナイト派牧師ヤーコブ・アマン指導。
- 12 **モラヴィア兄弟団**：1722年、ドイツのザクセン州。
- 13 **メソジスト派**：1720年代～1730年代、イギリス。
- 14 **シェーカー派**：1758年頃、イギリス、由来：宗教的恍惚体験での震え。
- 15 **ユニテリアン派**：1774年、イギリス、唯一の神のみを信じる、人生経験に基づく心理を追究。
- 16 **モルモン教**：1830年、USA ニューヨーク、末日聖徒イエス・キリスト教会、米ジョセフ・スミス設立。
- 17 **プリマス・ブレザレン**：1831年、イギリス・プリマス、プロテスタント教会のセクト主義を嫌い発足。
- 18 **キリスト・アデルフィアン派**：1844年、USA ヴァージニア州リッチモンド、ジョン・トマス創設。
- 19 **セブンスデー・アドベンチスト教会**：1863年、USA ミシガン州バトルクリーク、安息日再臨派。
- 20 **救世軍**：1865年、1865年、イギリス・ロンドン、メソジスト派牧師ウィリアム・ブース創設。
- 21 **カリスマ運動**：1950年代～1960年代、各地、カリスマ（聖霊の賜物）、再臨を信じる。
- 22 **アフリカ系教派**：20世紀、アフリカサハラ以南の地域、西洋のキリストとは異なる独自のキリスト教。
・・・他

【参考】宗教年鑑 令和元年版(文化庁編)

<1> 日本への伝道

キリスト教の日本への伝道は、天文18(1549)年、**ローマ・カトリックのイエズス会の宣教師F・ザビエル**(1506～1552)の来日に始まる。

豊臣秀吉はキリスト教の信仰を禁じたが、17世紀初頭には、数十万人の信者がいたといわれている。

徳川幕府も徹底した弾圧を行ったため、キリスト教徒は全滅に等しい状況となった。

日本へのキリスト教の本格的な再布教が準備されたのは幕末の頃であった。諸外国は日本の開国を求め、日本国内に公館(大使館・公使館・領事館)を建て始め、同時に宣教師たちの日本上陸が始まった。

明治 11 (1878) 年、関西の公会が日本基督伝道会社を設立、明治 19 (1886) 年に**日本組合基督教会**が結成された。

バプテスト派では、アメリカのゴープルやブラウンによって伝道が開始され、明治 6 (1873) 年、横浜に**第一浸礼教会**が設立された（北部バプテスト系）。また、明治 22 (1889) 年からは南部バプテストの伝道も始まり、両派は協議して日本の伝道区域を東西に分け、東部は北部バプテスト、西部は南部バプテストの分担とした。

メソジスト派では、明治 6 (1873) 年に**アメリカ・メソジスト監督教会**と**カナダ・メソジスト教会**の宣教が始まり、この二者に**アメリカ・南メソジスト監督教会系**が加わり三者が合同して、明治 40 (1907) 年に**日本メソジスト教会**が結成された。

<2> キリスト教系諸教団

昭和 15 (1940) 年に「**宗教団体法**」が施行されたが、この法律の施行に当たってキリスト教で宗教団体たる教団となったのはローマ・カトリックの**日本天主教教団**とプロテスタントの**日本基督教団**であった。

日本基督教団はプロテスタントの日本布教の初めからあった超教派主義的な合同教会的性格の教団（日本聖公会の一部とセブンスデー・アドベンチストを除く）でほとんどの教派がこれに参加したが、個々の教会の中には参加しないものもあった。

昭和 20 (1945) 年、宗教団体法に代って「**宗教法人令**」が施行され、各教派は新たに独自の教団形態を目指す道が開かれた。プロテスタントでは、宗教団体法当時の日本基督教団に所属していた教派の中には、日本基督教団に留まるものも多かったが、この教団から分離し、独自の教団を形成するものもあった。また、新たに布教を始めた教団も少なからず存在した。

ローマ・カトリックは、宗教法人令により**天主教教区連盟**となり、さらに昭和 26 (1951) 年からの宗教法人法により**カトリック中央協議会**となり、今日に至っている。

現在は全国を 16 の独立した司教区（札幌、仙台、新潟、さいたま、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、広島、高松、福岡、大分、長崎、鹿児島、那覇／東京、大阪、長崎：大教区）に分け、司教を中心として自主的に運営がなされている。また、司教区を超えたローマ・カトリック界の全国的な活動について協議する**日本カトリック司教協議会**が設置されている。

ギリシア正教会系の教団として、**日本ハリストス正教会教団**がある。日本ハリストス正教会教団（ハリストスとはキリストのギリシア語読み）は、戦後には在米ロシア正教会と連携して活動したが、昭和 44 (1969) 年モスクワとの関係を回復し、同 45 年自治教会として正式に認められた。同教団では、全国が三つの主教教区に分けられ、**東京復活大聖堂（ニコライ堂）**が首座主教座聖堂となっている。

プロテスタントの最大の教団は日本基督教団である。同教団は、日本基督教団の従来の合同教会としての理念を継承し、現在でも宗教団体法下の日本基督教団を構成した教派の多くを包含している。同教団は、教団総会を最高の政治機関とし、教会の運営については教会総会があり、会議制を採っている。教団は昭和 29 年には信仰告白及び生活綱領を定め、昭和 44 年には**沖縄キリスト教団**と合同した。

英国教会系では**日本聖公会**がある。日本聖公会は明治 20 (1887) 年 2 月に全国の教会を組織した教団結成を決めていたが、第 2 次大戦中に教団組織を解体させられた。昭和 20 (1945) 年 12 月改めてその機構を復活して今日に至っている。日本聖公会では、全国を 11 の教区に分け、それぞれ主教をおいている。ローマ・カトリックと同じく聖公会の教区も独立しており、教区内の事柄は主教を中心として運営されている。日本聖公会は、首座主教のもとに一つの管区を構成し、他の管区の干渉を受けずに主教を叙任し、総会で全てを決定する。

日本基督教団、日本聖公会以外の主なプロテスタントの教団を列举すると、

まず、ルーテル派では、**日本福音ルーテル教会**（アメリカ一致ルーテル教会系を中心にフィンランド系の福音ルーテル教会等が合同）が最大のものであり、**日本ルーテル教団**（アメリカ・ミズーリ派ルーテ

ル教会系)、日本ルーテル同胞教団(アメリカ・ルーテル同胞教会系)、などがある。

カルバン派では、日本キリスト教会、日本キリスト改革派教会、カンバーランド長老キリスト教会日本中会などがある。会衆派は日本基督教団に合同している。

また、メソジスト派の教会の多くも日本基督教団に合同しているほか、日本自由メソヂスト教団(ホーリネス系)などがある。

バプテスト派には多くの教団があり、中でも日本バプテスト連盟(南部バプテスト系)、日本バプテスト同盟(北部バプテスト系)のほか、日本バプテスト・バイブル・フェローシップ(ファンダメンタル・バプテスト教会系)、日本バプテスト教会連合などがある。また、ホーリネス系としては、日本ホーリネス教団(旧聖教会系)、基督兄弟団(旧きよめ教会系)、イムマヌエル綜合伝道団、東洋宣教団(旧称・東洋宣教会きよめ教会)などがある。

<3> キリスト教界の戦後の動き

現在、日本のキリスト教界には日本キリスト教連合会(略称・日キ連)や日本キリスト教協議会(略称・NCC)などの教団・教派を超えた組織がある。

日本キリスト教連合会はカトリックとプロテスタントによる団体で、法人事務の向上を図るために相互に研修し、親交を深めること、また憲法に定める信教の自由と政教分離の原則に基づき、全キリスト教会の信仰による良心の自由と共通の利益を守ることを目的とし、公益財団法人日本宗教連盟の協賛団体ともなっている。

日本キリスト教協議会はプロテスタントの教会(教団)とキリスト教関係団体によって構成され、加盟団体のキリスト教としての一致をもとめるとともに、平和、人権問題などに取り組んでいる。

戦後、聖公会などプロテスタント教会を中心に進められてきたエキュメニズム(教会合同運動あるいは世界教会運動)は1960年代になると、カトリック教会が第2ヴァチカン公会議以降、積極的な姿勢を打ち出したこともあって、大いに進展した。その一環として昭和53(1978)年にはカトリックとプロテスタントの協力によって『新約聖書共同訳』が刊行され、昭和62(1987)年には旧約聖書も含む『聖書新共同訳』が刊行された。

【補筆】キリスト教の大迫害

303年、ディオクレティアヌス皇帝(在位:284年11月20日~305年5月1日、286年4月1日~305年5月1日まで、西方正帝マクシミアヌスと共治、帝国を東と西にわけ、それぞれ正帝と副帝の2人が統治する四帝分治[テトラルキア]をしいて政治的秩序を回復した)は最後に最大のキリスト教迫害を行った。

自らをユピテル神になぞらえ、神としての皇帝崇拜を強要、専制君主として支配し(→専制君主制[ドミナトゥス])、伝統的なローマの神々への祭儀への参加をキリスト教徒に強要した。キリスト教の書物は焼却され、教会の財産は没収された。キリスト教徒を円形闘技場に引き出し、ライオンに食わせる公開処刑、聖書(原型となる書物)を没収、焼却などを行い、信仰自体を無くそうとした。

迫害は、その後も続けられ、エジプトや小アジアで多くの教徒が殉教した。しかし、キリスト教徒の増加を抑えることができなかったコンスタンティヌス1世は、ついに313年、ミラノ勅令を発して迫害を中止し、キリスト教の公認に踏み切った。

編集: 谷口 一